

平成21年度

研究紀要

第23号

発達障害のある幼児児童生徒への支援に関する研究

幼稚園における特別支援教育の 推進に関する研究

特別支援学級の指導内容に関する研究

自閉症・情緒障害特別支援学級における 自立活動の指導に関する研究

北海道立特別支援教育センター

ま え が き

平成21年4月から、全国の小学校・中学校において、新しい学習指導要領の一部が先行実施されています。また、幼稚園の新教育要領が全面実施されるとともに、特別支援学校の新学習指導要領等についても幼稚園、小・中学校に準じて実施されています。

幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領においては、「障害のある幼児児童生徒の指導に当たって、特別支援学校等の助言や援助を活用しつつ、指導についての計画又は家庭や医療、福祉等の事業を行う関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成することなどにより、個々の幼児児童生徒の実態等に応じた指導内容や方法の工夫を計画的、組織的に行うこと」が示されました。

さらに、幼児児童生徒の障害の重度・重複化、発達障害を含む多様な障害に応じた指導を充実するために、自立活動において「他者とのかかわりの基礎に関すること」等を内容とする「人間関係の形成」の区分が新設され、個別の指導計画の作成についてより一層理解を促すために、指導計画の作成手順等が具体的に示されました。

また、本センター研修講座や教育相談の受講者や来所者から、幼稚園等での特別支援教育の在り方及び幼稚園と家庭との連携の課題が指摘されています。ここ数年、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童生徒が急増し、指導者の専門性に係る課題等も明らかになってきました。

以上のような現状を踏まえ、当センターでは、北海道における特別支援教育の緊要な課題に対応し、その解決に資するための研究に取り組み、この度、以下の2つの研究をまとめました。

「発達障害のある幼児児童生徒への支援に関する研究『幼稚園における特別支援教育の推進に関する研究～発達障害のある幼児の理解と対応を通して～』」では、幼稚園における特別支援教育の現状と課題を整理し、幼児一人一人の姿を「集団場面」と「発達」の視点でとらえ、「よさ」を生かした指導・支援と、幼児のよりよい育ちを目指して保護者と連携するためのポイントについて考察しました。

「特別支援学級の指導内容に関する研究『自閉症・情緒障害特別支援学級における自立活動の指導に関する研究』」では、自閉症の特性による学習上又は生活上の困難を「考えられる要因」と「特性からの理解」という視点で整理し、個別の指導計画の作成と指導の手順について事例を通して考察しました。

本研究の内容については、当センターの研修講座やホームページ等を通して、研究情報の迅速な提供や普及を図ってまいりたいと考えております。各学校の実践や研究・研修活動に御活用いただき、その成果や課題などをお寄せいただければ幸いです。

平成22年3月

北海道立特別支援教育センター

所長 百井悦子